第 234 号
平成７年（1995年）３月20日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3-3-35

謙譲と敬意に満ちた社会の構築に向け、諸君の英知と活力を

関西大学学長 石川啓

本日、星霜を重ね、めでたく卒業される諸君に、最初に心からお祝いの言葉をお贈りしたいと思います。

ご卒業おめでとう。

しかしながら、今年は、諸君の晴れの卒業を前にして、われわれは悲惨な災害に遭遇しました。去る一月の阪神大震災によってお亡くなりになった四人の本学の学生、お二人の職員の方のご家族、お一人の非常勤の先生を始め、すべての犠牲者のご冥福を謹んでお祈り致したいと思います。

また、被害を受けられた方々に、改めてお見舞いを申し上げると共に、震災後、ボランティアとして被災者の救援に活躍された諸君に対して、深甚なる敬意を表したいと思います。

諸君は人々の生命と生活を一瞬にして打ち砕いた大震災を目のあたりにして、それをどのように受け止められたのでしょうか。

物質的なもののむなしさ、科学の限界、政治的、経済的または社会的システムの脆弱性、危機管理の必要性、人の情けを改めて知るなどなど、いろいろな感慨をもたれたことでしょう。その体験と感慨を忘れることなく、これからそれぞれの持ち場で活躍して戴きたいと思います。

今回の震災はわれわれ日本人にとって大変な物理的衝撃であっただけでなく、われわれの価値観を揺るがす程の精神的ないしは文化的衝撃であったと思います。この体験は今後のわれわれの生き方や精神形成に大きな影響を与えるでありましょう。われわれは、豊かさや繁栄を当たり前と考えている時には、物質的な物のむなしさ、はかなさには気づきにくい。そして物質主義に心を奪われている間は、感謝の心とか共に働く喜びといった目には見えないが大切なものを忘れがちであります。私は、われわれ日本人が今回の衝撃から立ち上がり、今回露呈したさまざまな問題点を反省し、克服すべく努力を傾注するであろうことを確信いたしておりますが、これからの社会がより精神的に豊かで、謙譲と敬意にみちた社会でありたいものであります。

これまで、諸君の両親、家庭、大学、社会は、二十一世紀を担って立つ諸君の力量に期待し、諸君を温かく見守ってくれたと思います。

本日より社会に貢献する立場にたつ諸君は、これからは社会における凱風の源となって戴きたい。諸君がその英知と活力でもって大いに活躍されることを衷心より願っています。

HEADLINE

2 面 平成六年度の卒業式
3 面 阪神・淡路大震災の影響
4・5 面 特集「私の関大生活」
6・7 面 大学を去るに当たって
8 面 関大フォーラム「大学と職業教育」

千里眼

神戸育ちの友人とおしゃれ談議。私の服装についても、細ごまとアドバイスはしてくれるが、あかんやつは何を着てもね、と口は相当に悪い▼大阪のおしゃれは原色と光りものと言い切る。曇った空とくすんだ町並み。そんな背景から抜け出て自己アピールするには、それしかないそうだ。では神戸のおしゃれは？▼空の青、六甲の緑、石だたみの白、レンガの赤、そして海の紺。町を組み立てている色は、単純で、強烈で、眩しいほど明澄だ。少々の原色では背景に負けてくすんでしまう。うまく溶け込みながら、ひと呼吸置いて〈すてき〉と感じさせる。この辺のところが実に難しい▼おしゃれのセンスが洗練される訳はもう一つ。二十歳になったら自活するのが当たり前。それが無理でも自分のおしゃれは自分の甲斐性で、という若い子たち。時には食費をつめてもおしゃれのための資金を貯める▼気に入るものを見つければ、大金を投じても躊わずに手に入れる。が、それが自分や町に合うとは限らない。失敗だと判ったとき悔しさがこみあげる。悔しさの積み重ねがセンスを磨きあげる▼「地震で破壊されても、空や海や六甲は残ってる。自立心を持った若い子もたんといる。大丈夫やから」（K・K）

平成6年度 卒業式挙行

晴れて新学士 5757人

平成六年度卒業式は三月二十日（月）に挙行され、五千七百五十七人の新学士が誕生する。第1部は、昨年四月に竣工した第2体育館を使用して、午前9時から今回初めて全学部合同で挙行され、第2部は、午後六時から全学部の式が百周年記念館で挙行される。

新しく学士の称号を認められる者は、法学部九百二十九人（第1部八百十一人、第2部百十八人）、文学部九百十五人（第1部八百六十四人、第2部百五十一人）、経済学部八百十六人（第1部七百八十八人、第2部百五十五人）、社会学部九百七十七人（第1部九百四十五人、第2部二十二人）、工学部千百九十六人の合計五千七百五十七人である。

大学院では、三月二十三日（木）に博士課程（前期課程および修士課程修了者、博士課程後期課程単位修得者に対して、それぞれ修士の学位記、単位修得証書の授与式が行われる。修士の学位を授与される者は合計三百八十五人で、博士課程後期課程単位修得者は合計四十人である。

被災死の両君卒業

一月十七日の阪神・淡路大震災で死亡した経済学部学生平見浩二、松井北斗一両君（いずれも四年次生）は学年末試験を受けられなかったが、過去の成績など勘案し、正規卒業生として認められた。

法人人事

二月二十四日開催の理事会において、次のように新役員が決定した。

常務理事　森本靖一郎

就任は平成七年四月一日。

各種受験研究会

卒業後も国家試験等の受験のための勉学をあようと思う場合には、次にあげる各種研究会を利用することができます。

■**司法試験受験研究会**

①会員資格＝博士、検事、弁護士など法律専門職に就くことを志す本学在学生・卒業生。

②研究会活動＝専任教員、他大学教員、並びに先輩法曹による特別講義、学習指導、司法試験答案作成練習、合宿など。

③募集時期＝毎年四月。

④会費＝年額基本会費一八、五四〇円。追加会費五、一五〇円。

■**行政試験受験研究会**

①会員資格＝(ア)国家及び地方公務員、(イ)外務省職員、(ウ)国税専門官、(エ)労働基本監督官、(オ)弁理士、(カ)司法書士、(キ)家庭裁判所調査官を志す本学在学生（初級コースは一年次以上、受験直前コースは初級コース修了者、ただし外務職員・弁理士コースは一年次より募集）・卒業生。

②研究会活動＝前記各区分の試験主要科目を開講し、専任教員、現職の弁理士、司法書士が指導。

③募集時期＝毎年六月中旬。

④会費＝年額一五、四五〇円。

■**資格試験めざす人へ**

①会員資格＝(ア)国家及び地方公務員、(イ)労働基本監督官、(ウ)弁理士、(エ)司法書士、(オ)会室会員（簿記2級以上を持つ者を対象に抽選する）

②会員種別＝(ア)講義会員、(イ)会室会員（簿記2級以上を持つ者を対象に抽選する）

③活動＝講義会員には、簿記、民法・商法・経済学入門免、(イ)研究所刊行物である機関誌「技苑」（「工技研ニュース」の名称変更）、(ウ)その他研究所の主催する事業・講演会、研究会等）への優遇。

③賛助費＝法人会員年額一口二〇、〇〇〇円、個人会員年額一口一〇、〇〇〇円。

④会費＝講義会員は各クラス八、〇〇〇円、会室会員は一、〇〇〇円（郵送料とも）。

■**工業技術研究所賛助員会**

①賛助員会の目的＝研究所と賛助員との連絡を密にして、研究所のあらゆる研究活動を支援し、もって研究所の発展向上を図る。

②賛助員の特典＝(ア)委託研究（調査）費、試験・分析手数料及び技術相談費等の減免、(イ)研究所刊行物である機関誌「技苑」（「工技研ニュース」の名称変更）の無料配布、(ウ)その他研究所の主催する事業・講演会、研究会等への優遇。

③賛助費＝法人会員年額一口二〇、〇〇〇円、個人会員年額一口一〇、〇〇〇円。そのほか、当研究所には、熱処理技術研究会、資源・エネルギー研究会、情報科学研究会、新機能物質創製研究会、超伝導研究会、バイオサイエンス研究会などがあり、それぞれの研究目的にかなった講演会や研究会を開催し、研究報告書、講演集などを刊行している。

熟処理技術研究会では、研究会員の資格は本学教職員、それぞれの研究に従事する本学卒業生並びに賛助員会員である。会費は年額個人一、〇〇〇円、団体は三、〇〇〇円の報酬、賛助員会員はいずれも無料である。

なお情報科学研究会については、本学教職員は会費無料として広く全学からの参加を募っており、一般個人も学外個人会員として参加できる。

卒業される みなさんへ

学生部

このほどめでたく卒業される諸君のなかには、日本育英会や関西大学奨学生あるいは大阪府育英会等の各地方自治体・財団の奨学生として、学業に励んできた人も多いことでしょう。

在学中に貸与を受けた奨学金が先輩の返還金により運用されていたのと同様、今後は諸君の返還金により後輩へ奨学金が貸与されていくことを銘記しておいてください。

返還方法等については、それぞれの奨学金制度ごとに説明会が行われたり、返還のてびき等が配布されたりしているので、それらにしたがって、卒業後の返還計画をしっかりと立て、遅延しないよう心掛けてください。

返還の期日が近づくと「返還通知」が送付されます。しかし、卒業後に住所変更をされた場合には、「返還通知」が手元に届かず連帯保証人の方へ迷惑をかけたり、延滞利息が加算されたりということも起こりえます。よって卒業後得す法的手続を含めた厳しい処置がとられます。

「てびき」にしたがって 期限内に奨学金返還

返還年賦額と返還期間の概要
―平成3年度入学生の例―

日本育英会奨学金（1年次から4年次まで奨学生であった場合の例<45カ月分>）

種類	貸与月額	貸与総額	返還総額	返還年賦額	最終返還年賦額	返還年数
第一種（無利息）	41,000円	1,845,000円	1,845,000円	120,000円	165,000円	15年
	51,000円	2,295,000円	2,295,000円	130,000円	215,000円	17年
第二種（利息付き）	41,000円	1,845,000円	2,301,353円	153,423円	153,431円	15年
	51,000円	2,295,000円	2,941,703円	173,041円	173,047円	17年

関西大学奨学金（在学中の貸与額によって異なる）

区分 部・学部	貸与額	返還年賦額	最終返還年賦額	返還年数
第1部 法・文・経済・商・社会学部	1カ年貸与 330,000円	70,000円	120,000円	4年
	4カ年貸与 1,320,000円	120,000円	120,000円	11年
第1部 工学部	1カ年貸与 480,000円	70,000円	130,000円	6年
	4カ年貸与 1,920,000円	150,000円	120,000円	13年
第2部 法・文・経済・商・社会学部	1カ年貸与 170,000円	50,000円	70,000円	3年
	4カ年貸与 680,000円	90,000円	140,000円	7年

返還をおろそかにすることなく期限内に返還しましょう。

また進学、残留などで平成七年度も在学する場合には、四月に入ってから「在学届」の提出が必要で、この届けをおろそかにすると返還義務が生じます。

就職部

ご卒業おめでとうございます。今年も多くの皆さんが社会へと旅立たれます。今まで長い間、ご苦労されてきました。そして、各方面で多くの方々が活躍されています。皆さんも一日も早く社会の水に慣れ、存分に活躍されることを期待します。

また、これから新たな就職シーズンが始まろうとしていますが、後輩諸君が助言を求めて、皆さんを訪問すると思います。その節は何かとご指導のほど、よろしくお願いいたします。

後輩の就職に助言・指導を

残念なことに、四名の学部学生と一名の第一高等学校生の方が、学業半ばにして、尊い一命を失われた。職員の方には亡くなられた方はいなかったが、二名の方がご家族を亡くされ、非常勤講師の方が一名亡くなられた。

本学の建造物も少なからぬ被害を被り、総額一億四千万円弱の直接の被害を受けた。なお、亡くなられた方々は次のとおりである。改めて、ご冥福をお祈りする。（敬称略）

平見　浩二（経済学部四年）
松井北斗（経済学部四年）
馬場　一嘉（工学部一年）
八幡　勇一（一高一年）
松本　剛（非常勤講師・独語）
中才　直紀（法学部一年）

第2体育館の被害状況

阪神・淡路大震災 本学にも大きな影響

学生ら6人犠牲に

―本学の被害状況―

去る一月十七日未明の阪神・淡路大震災に際して、本学においても多数の学生、ならびにその親族、教職員の方々が被災され、今もなお不自由な環境の中での生活を強いられている。

建物の主な被害

	大学	一高
窓ガラスの損傷	768枚	40枚
壁床の亀裂	無数	
体育館天井仕上げ材落下	2カ所	
階段損傷	第3学舎	
照明器具落下	3カ所	
外壁損傷	3カ所	
屋根瓦の落下	1カ所	1カ所

学生教職員の被災状況

区分 状況	学部（第2部含む） 法	文	経	商	社	情	工	計	大学院	一高	中	教職員	合計
本人 死亡	1		2				1	4		1			5
本人 重傷	1							1					1
本人 軽傷	14	8	2	7	5		6	42	1			6	49
学費負担者 死亡				2			1	3					3
学費負担者 重傷	4	1	1		1		5	12		1			13
学費負担者 軽傷	7	14	4	6	5	2	3	41					41
家屋 焼失	2	2	2	1	3		4	14				1	15
家屋 全壊	52	12	20	39	16	7	40	186	5	22	2	6	221
家屋 半壊それ以下	189	155	68	114	228	38	406	1,198	25	29	4	39	1,295

―被災学生の救援―

学費減免や義援金給付

地震発生の日は、**学年末試験・秋学期試験**の開始日であったが、本学へのアクセスである阪急線の全線運休に伴い、交通機関のストライキ等による休業の内規を適用し当日を休講扱いとし、当日の試験は一月二十九日の日曜日に振り換えることを決定し掲示した。翌十八日は阪急線の一部は開通したが、なお交通、通信が混乱状況にあったので休講にし、試験は学試験後の二月八日に振り換えることに流す手はずをとった。また、学費支弁者の方に、これ以上休講措置を続けることが入学試験を控え目程にされた。困難等の判断から、登学可能な学生を対象に予定どおり一月十九日から学年末試験を行うことを決定した。このことを、一月十八日午後学内に掲示し、十九日主要な新聞の朝刊紙面に広告として掲載するとともに、ラジオのスポット広報をすぎるとった。また、被災地区の学生に対して二月十五日から二十一日の間に別途に試験を行うことを決定した。このことを、一月十八日午後学内に掲示し、十九日主要な新聞の朝刊紙面に広告として掲載するとともに、ラジオのスポット広報をすぎるとった。また、被災地区に本人または学費支弁者が在住する学生四、四七四名宛に、お見舞いと上記措置並びに被災状況を学内知らせて頂くための返信用はがき同封した旨、通知した。

なお、二月十五日からの試験は、ボランティア助勤などにより学年末試験を受験出来なかった学生も受験できることとした。また、学生部は通学が困難になった学生や、住居が損壊した学生に対して、高岳館への宿泊、大学近隣の下宿の斡旋を行った。

入学試験の出願に関しても、被災地区の受験生を考慮して、願書受付付けの郵送および持参受付付けともに、それぞれ一日ずつ受付付けを延長すること、ならびに受験会場の変更などの相談にかじとることを決定し、一月十九日付け主要新聞紙上で公表した。さらに、入学試験の願書受付付けに関しては諸般の事情を考慮して持参に限り、再度延長することを決定した。

また、震災の混乱により出願をされない受験できなかった受験生を対象とする追加入学試験を二月二十六日の総合情報学部のA日程入学試験の際に施することにし、二月八日の入学試験の終了した翌日、新聞広告で公表した。

この間、被災状況の甚大なることが判明するに伴い、学費の継続が困難になる学生が増えることを憂慮し、本学としては前例のない授業料等の減免措置を行うことを、理事者側と協議して決定するとともに、広く学生・教職員に呼びかけ義援金を募集し、被災者に配分することを得た。この措置は一月二十三日付けで、新聞紙上で広告して、学内に掲示により告知した。義援金は三月一日現在、九五四万円の多額が寄せられ、一一人の学生に既に給付されている。

日本育英会奨学金
「災害救助法の適用を受け、緊急に奨学金の貸与の必要が生じた場合。

関西大学奨学金
「奨学金出願の案内」を参照してください。（学費減免を受けている間は適用されません。）

学費等の減免措置は学費支弁者の死亡、住居の全壊、全焼、半壊等により学業の継続が困難な学生が、大学院生に対して平成七年度の前期分の学費の全額または半額減免されるもので各学部事務室で申し込みを受け付けている。なお、この措置は平成七年度の新入生に対しても適用される。

女子学生の就職合宿セミナー

平成六年度の就職戦況は長期不況の影響を受けて、厳しい状況が予測されている。

就職課では指導方針の一環として今年も、三年次生を対象として就職戦略合宿セミナーを高槻・高岳館で開催した。

プログラムの内容は、就職活動のハウツー講座、OG・内定者を招いてのパネルディスカッション、模擬面接、グループディスカッション等で、合宿なさうちはのメニューを一泊二日の日程で消化した。

（就職部）

名取栄史氏（ながとり・えいじ＝文学部教授）二月十六日午前一時十八分、肝不全のため死去。六十七歳。

昭和二十九年関西大学大学院文学研究科英文学専攻を修了して、関西大学文学部助手、専任講師、助教授を経て四十二年教授。四十八年から一年、六カ月文学部長、五十六年から五年間図書館長を務めた。専攻は英米劇文学。

二月十六日午前一時十八分名取栄史先生は永久に帰らぬ人となられた。一月末の学年末試験の監督に来られた先生は学部試験開始直前に入院された。

名取栄史先生を悼む

島崎　守

二月十六日午前一時十八分名取栄史先生は永久に帰らぬ人となられた。一月末の学年末試験の監督に来られた先生は学部試験開始直前に入院されたとも。大学紛争時の文学部長、総合図書館開設時の図書館長、東西学術研究所長等の要職を歴任され、生粋の関大マンとして関大発展のために文字通り滅私奉公されて四十有余年。最後まで誠実なお人柄、お姿は変わることがなかったのである。

先生は本学英文学科創設者の一人堀正人名誉教授の高弟の一人として、研究・教育の一つのジャンルに及ぶ論文を次々に発表され、また、日本アメリカ文学会、パウンド協会、日本比較文学会、アメリカ演劇研究者会議などでの講演、シンポジウム・パネラーとして活躍された。また先生は英米文学のみならず日本古典に精しく、私も歌舞伎や能に詳しいとは知らなかった驚いたとおっしゃったことを思い出す。先生は神戸っ子らしいダイリストで、颯爽と観劇に行かれる姿が粋であった。ご冥福をお祈りするばかりである。

（文学部教授）

在りし日の名取先生（左端）とご家族

続発する差別落書きの非道に猛省を
―姿なき実行者の良心に訴える―

去る一月十七日未明、突如襲った未曾有の阪神・淡路大震災によって確実されたかの方、これまで築いてこられた生活の基盤が瞬時に崩れてしまった方、否かけがえのない命まで失ってしまわれた方、そして、この言い知れぬ現実のなかで、ただ黙して生活の再建に身を削っておられる幾多の方がある。これは、その間に、神戸に知友を見舞い、目の当たりにした光景である。この奇怪な現実を前に、いま敢えてここで紙面を借り、筆を運んで訴えねばならぬ以下の事態は、加えて私の胸をうち拉（しし）ぐ。

昨年四月、第2部の移転に伴い新装成った第2学舎を中心に、もっぱら夕刻を狙って、理不尽にも差別を被っている人々を牢乎かり抜きたい偏見から悪罵・嘲弄して本学からの放逐を叫び、あまつさえ、その挑発を口にする暴慢さ。震災による被災者の方々の、胸をうち拉（しし）ぐ。

昨年四月、第2部の移転に伴い新装成った第2学舎を中心に、もっぱら夕刻を狙って、理不尽にも差別を被っている人々を牢乎かり抜きたい偏見から悪罵・嘲弄して本学からの放逐を叫び、あまつさえ、その挑発を口にする暴慢さ。震災による被災者の方々の、胸をうち拉（しし）ぐ。

ここに引くことは、敢えて避けたい。いや、私にはそれさえ出来ない。それほどおぞましい中身である。ここにはその事件のみ列記し、報告しよう。すなわち、昨年四月十八日、散乱したテレホンカードの束を拾得、「◎改　政治結社平成太閤会」に変える。十二月十三日、差別掲示物を貼付、「◎改　政治結社平成太閤会」と書き残す。十二月二十二日、便所扉内側に差別落書き物、「政治結社平成太閤会　会員小河内清照」と名乗る。本年二月二日、教室壁面に差別落書き発覚。以上、七件である。

これら一連の差別落書きに見られる特徴は、部落差別、民族差別、障害者差別、女性差別、第2部に対する差別的言動など諸々の差別事象を同一視、改姓、連帯保証人の変更などが、すべて確実に出るという場合も、度々あったのである。実行者は一体どんな心の陰湿な手口に、人間として持ち主なのか。姿を隠したその卑怯な手口に、人間として恥じるべき所業の数々が、内面の荒廃（すさ）びがそのまま露出しているのを自覚できないほど、この間、一瞬の隙を狙って挙に出るという場権奪発行事にこれらの事件を取り上げて、聴衆に呼びかけ、講演内容にもこの趣旨を織り込んで貰うようその都度努力してきた。その経緯は、すでに周知のことである。

本学には、自らの境涯を明かし、胸を張って差別と闘いつつ共に学んでいる学友がいるのである。そのことを、どう見つめる心こそ大切である。そもそも教育が、次代を担う若者人と共に未来を語る」営みであるべきならば、私たちは、かかる差別落書きの非道に猛省を促すと同時に、その姿なき実行者の良心に直に訴えかけ、人権意識の高揚と差別解消への歩みを共に結び強く踏み固めていかねばならない。

（文学部教授）

学生部長 中島　巌

師の方が一名亡くなられた。

第2体育館の被害状況

去る一月十七日未明、突如襲った未曾有の阪神・淡路大震災によって確実された多くの方々、これまで築いてこられた生活の基盤が瞬時に崩れてしまった方、否かけがえのない命まで失ってしまわれた方、そして、この言い知れぬ現実のなかで、ただ黙して生活の再建に身を削っておられる幾多の方がある。これは、その間に、神戸に知友を見舞い、目の当たりにした光景である。この奇怪な現実を前に、筆を運んで訴えねばならぬ以下の事態は、加えて私の胸をうち拉（しし）ぐ。

昨年四月、第2部の移転に伴い新装成った第2学舎を中心に、もっぱら夕刻を狙って、理不尽にも差別を被っている人々を牢乎かり抜きたい偏見から悪罵・嘲弄して本学からの放逐を叫び、あまつさえ、その挑発を口にする暴慢さ。震災による被災者の方々の、胸をうち拉（しし）ぐ。

ここに引くことは、敢えて避けたい。いや、私にはそれさえ出来ない。それほどおぞましい中身である。ここにはその事件のみ列記し、報告しよう。すなわち、昨年四月十八日、散乱したテレホンカードの束を拾得、「◎改　政治結社平成太閤会」に変える。十二月十三日、差別掲示物を貼付、「◎改　政治結社平成太閤会」と書き残す。十二月二十二日、便所扉内側に差別落書き物、「政治結社平成太閤会　会員小河内清照」と名乗る。本年二月二日、教室壁面に差別落書き発覚。以上、七件である。

これら一連の差別落書きに見られる特徴は、部落差別、民族差別、障害者差別、女性差別、第2部に対する差別的言動など諸々の差別事象を同一視、改姓、連帯保証人の変更などが、すべて確実に出るという場合も、度々あったのである。実行者は一体どんな心の陰湿な手口に、人間として持ち主なのか。姿を隠したその卑怯な手口に、人間として恥じるべき所業の数々が、内面の荒廃（すさ）びがそのまま露出しているのを自覚できないほど、この間、一瞬の隙を狙って挙に出るという場権奪発行事にこれらの事件を取り上げて、聴衆に呼びかけ、講演内容にもこの趣旨を織り込んで貰うようその都度努力してきた。その経緯は、すでに周知のことである。

本学には、自らの境涯を明かし、胸を張って差別と闘いつつ共に学んでいる学友がいるのである。そのことを、どう見つめる心こそ大切である。そもそも教育が、次代を担う若者人と共に未来を語る」営みであるべきならば、私たちは、かかる差別落書きの非道に猛省を促すと同時に、その姿なき実行者の良心に直に訴えかけ、人権意識の高揚と差別解消への歩みを共に結び強く踏み固めていかねばならない。

（文学部教授）

結社細問会

とある。十月十二日、差別落書きテレホンカードの束を拾得、「◎改　政治結社平成太閤会」に変える。十二月十三日、差別掲示物を貼付、「◎改　政治結社平成太閤会」と書き残す。十二月二十二日、便所扉内側に差別落書き物、「政治結社平成太閤会　会員小河内清照」と名乗る。本年二月二日、教室壁面に差別落書き発覚。以上、七件である。

これら一連の差別落書きに見られる特徴は、部落差別、民族差別、障害者差別、女性差別、第2部に対する差別的言動など諸々の差別事象を同一視、改姓、連帯保証人の変更などが、すべて確実に出るという場合も、度々あったのである。実行者は一体どんな心の陰湿な手口に、人間として持ち主なのか。姿を隠したその卑怯な手口に、人間として恥じるべき所業の数々が、内面の荒廃（すさ）びがそのまま露出しているのを自覚できないほど、この間、一瞬の隙を狙って挙に出るという場権奪発行事にこれらの事件を取り上げて、聴衆に呼びかけ、講演内容にもこの趣旨を織り込んで貰うようその都度努力してきた。その経緯は、すでに周知のことである。

本学には、自らの境涯を明かし、胸を張って差別と闘いつつ共に学んでいる学友がいるのである。そのことを、どう見つめる心こそ大切である。そもそも教育が、次代を担う若者人と共に未来を語る」営みであるべきならば、私たちは、かかる差別落書きの非道に猛省を促すと同時に、その姿なき実行者の良心に直に訴えかけ、人権意識の高揚と差別解消への歩みを共に結び強く踏み固めていかねばならない。

（文学部教授）

校友会

〈あなたも今日から校友〉

関西大学校友会は、現在二十三万余人の母校の全卒業生で組織され、母校の発展に寄与するとともに、校友相互の親睦をはかることを目的とした大学の外郭団体である。

当局より校友業務一切の委託を受けております。

活動は学校法人評議員の推薦をはじめ、機関紙「関大」の発行、「校友会報」の刊行、年一回の校友総会・スプリングフェスティバルの開催、また校友の親睦をはかる各種の事業を行っています。

〈終身会費納入者に
機関紙「関大」を郵送〉

会費納入のみなさんに校友会機関紙「関大」を毎月一回、郵送します。「関大」は、一般満載、校友相互のコミュニケーションの場にもなっています。

あなたは、すでに終身会費をお納めでしょうか。もし未納の場合は、新卒業生に限り四月十日まで「予納あと払い」の特典が受けられます。納入金は二七、〇〇〇円です。

〈校友基本カードの提出を〉

すでにお手元にお送りしています「校友会案内」に同封の「校友基本カード」（返信ハガキ）は、あなた方母校・校友会を結び基礎データとなる重要なものです。必要事項を記入のうえ必ず四月十日までに提出して下さい。

このカードを基礎資料に、今春卒業生のみなさんの名簿を、七月中旬に単冊名簿として刊行します。予約定価二、〇〇〇円（郵送料とも）です。

単冊名簿の内容は、学部別、学科別に氏名、住所、電話番号、勤務先を掲載したものです。

また、四年に一度発行する全卒業生を収載した「校友名簿」は平成五年二月に刊行し、B五判、二三八四頁、頒価二、〇〇〇円（郵送料とも）

校友会では、カード時代に即応して、関西大学校友カード、JCB・UCビザ・UCマスターと提携し発行しています。関西大学校友カードは、カードに本来のクレジット等の機能を持つ他、校友のみが所持できる会員証的機能を併有し、さらに、提携優待店など独自の特典も多数備えており、利用額に応じて校友会へ還元金の交付もあります。

校友としての友好の絆と、母校との親しみをより一層深めるためにも、卒業の機会に是非ご入会ください。

〈校友会支部に新入大歓迎〉

校友会は、本部を関西大学会館三階におき、地域支部、職域会、同期会、関係校友会、各種団体など二百九十余の下部組織で支えられています。支部等の組織にも加入し、一緒に活動して下さい。

校友会はあなたの若い力をお待ちしています。

〈"関西大学校友カード"に入会を！〉

生涯、母校との架け橋
機関紙や名簿、カードも

図書館

自己に課せられた社会的責任があります。大学での勉強は終わったとはいうものの、社会人としての勉強がこれから始まろうとしているのです。

世は情報化時代といわれて久しく、世界屈指の経済大国となった日本の企業活動も、ますます高度化・複雑化、多様化し、その競争は国際戦略とも絡んで熾烈を極めています。程なくこの競争社会の渦中に置かれるであろう皆さんには、これまで以上にハードな勉強が要求されることは間違いありません。また、いわゆる「生涯学習」の過程で、自己の人格をより大きく豊かに形成していく努力も不可欠でしょう。

皆さんがこうした必要に迫られたとき、母校の図書館を思い出して下さい。図書館では、皆さんの生涯学習を側面から助勝していきたいと考えています。

〈卒業後の図書館利用〉

卒業後に図書館を利用するには、「校友利用券」が必要となります。そこで、利用上の要点についてお知らせしておきます。

◇「校友利用券」の申込み

総合図書館のメイン・カウンターまたは高槻図書室のカウンターへ、申請書に必要事項を記入して、現住所の確認できる書類（運転免許証・保険証・自分宛の郵便物など）を添えて申し込んで下さい。

「校友利用券」の有効期限は毎年度末まで。この利用券により総合図書館・高槻図書室のいずれも利用できます。

◇図書館の利用

図書館の利用方法は在学中とほぼ同じ。館外貸出は五冊以内、二週間以内（試験期を除く）となっています。総合図書館蔵書の貸出は、高槻図書室においても取扱いの便宜をはかっています。また、図書館蔵書の複写サービスも行っています。

卒業後も利用しよう

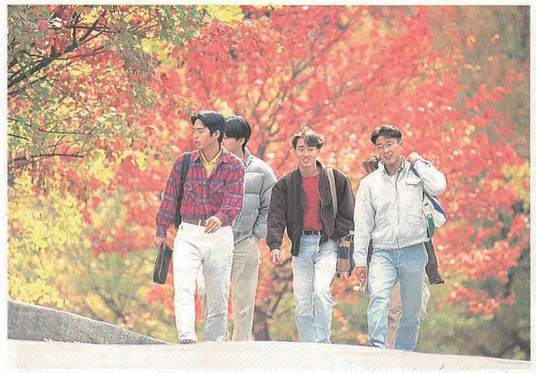
四年間の出来事

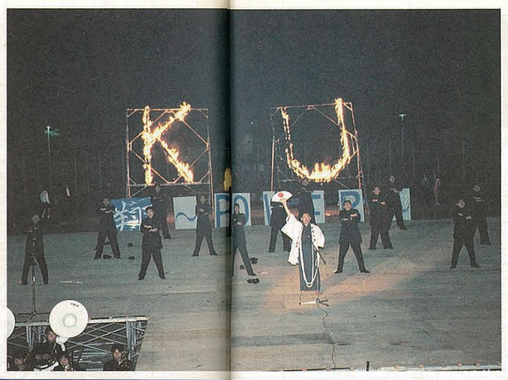
学部卒業生諸君が本学に入学したのは、平成三年四月であった。冷戦の終焉、ソ連邦の崩壊など世界情勢が大きく変化した年であった。

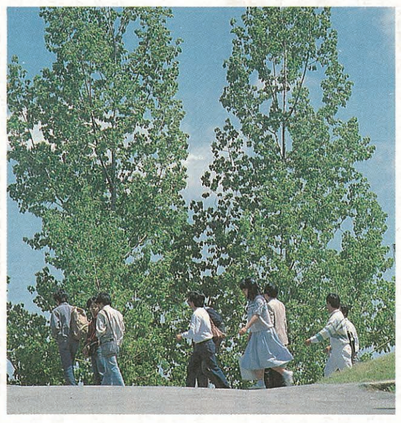
この四年間、関西大学は国際化・情報化をめざして施設や制度を整備し充実させてきた。国際化時代を迎え、従来の五大学（遼寧、復旦、東北、ジョージ・ワシントン、カトリック・ルーバン）に加えて、平成三年度にバーミンガム大学、ハワイ大学、平成四年度にオーストラリア国立大学、平成六年度にチューリッヒ大学と学術交流協定が締結され、国際交流のさらなる発展が望まれた。また、平成六年度には、復旦大学との協力により夏期中国語セミナーが開催された。

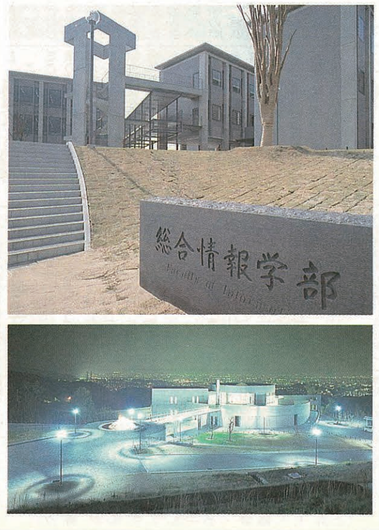
高度情報化社会にふさわしい教育・研究環境の充実をはかる一環として、平成四年度より学生全員に大型計算機用のIDが与えられ、計算だけではなく、就職情報検索や図書検索そして電子メールの交換が可能になった。また、平成四年度に竣工した第1学舎4号館をはじめ平成五年度には情報処理センター内にパソコン室が設置された。また、平成六年度には、総合情報学部が開設され、第2学舎1号館も竣工し、情報化・インテリジェント化に大きく寄与した。

スポーツ・文化面での学生諸君の活躍も数多くあった。コンスタントに実力を発揮している拳法部、速記部をはじめ、平成三年度には野球部が関西学生野球春季リーグ戦優勝、探検部がタリム川を下ってタクラマカン砂漠を縦断、平成五年度にはサッカー部が関西学生サッカー選手権大会優勝、工学部機械工学科計測システム研究室によるテクノサッカー大会優勝、平成六年度には交響楽団のオランダ演奏ツアー、探検部によるスカ高原があり、サッカー部の終焉、関西新空港開港、記憶に新しいところでは、阪神大震災があった。卒業生諸君の中にも、この震災によって甚大な被害を受け、今なお困難な状況にあるものもあるであろう。しかし、このような状況にあってこそ力強くあってもらいたい。卒業生諸君が夢にむかって大きくはばたき、健闘されることを心から祈りたい。









私の関大生活

思えば皆さんは「激動の時代」を大学の中で過ごしてきたのかもしれません。バブルの崩壊とそれに続く就職難。秋以降も、ねばり強く就職活動を続けた人も多いと思います。その上、思いもよらぬ阪神大震災です。

皆さんの未来もまた「変動の時代」です。終身雇用と年功制の動揺は会社を変え、家族を変え、日本社会を変えていくでしょう。そして大学も変わるでしょう。しかし、そこで学ぶ者に未来へ向けて生きる力を与えるという、大学の本質は変わらないと思います。この欄では、卒業する皆さんに、心に残る学園生活を綴ってもらいました。皆さんが良き思い出と自信を胸にして、それぞれの人生に旅立たれることを願ってやみません。（杉野）

素敵な研究室の仲間たち

田中恵美子

ドアを開けた瞬間、所狭しと並ぶパソコンの群。モニターに向かう、真剣な顔つきの男性たち。四月の初め、そこは一種独特の空気を感じてしまう程、緊張感と真正さが保たれた場所だった。

しかし、日が経つにつれて物事の本質は露になるものである。研究室生活が始まり、しばらくは驚きの連続であった。部屋の側面に貼られたポスター、机の上に無造作に置かれた雑誌、密かに交わされる会話の数々。これらが必ずしも研究一色に染まるものではなく、むしろ、男性たちにとっての心の栄養的要素を多く含んでいたことは、言うまでもない。ここで、笑い飛ばされれば…。女性である私が常に意識したのは、協調性と忍耐と順応の言葉であり、かくして、男の城で女が生き抜く智恵なるものを、少しずつ身に付けることとなった。

そして、月日は流れ、早くも一年。努力の甲斐あって、部屋の側面に貼られたポスターは彼らに対する感謝の気持ちで一杯である。

技術は男性が主流の分野。そこへ女性が割り込めば、忍耐と努力は当たり前。だが、その先には必ず、素晴らしい瞬間が待っている、と、信じて、これから、女性技術者としての第一歩を、しっかりと踏み出したいと思う。

（工学部・四年次生）

「勇往邁進」でサッカー

永井　克俊

サッカーのスポーツ推薦一期生として、関西大学の門を四年前にくぐった。サッカー部は年々着実に力をつけていき、一九九四年は、私にとって忘れることのできない年となった。

主将となった私は、他の四年次生と共に関西学生秋季リーグ優勝を目標とし、全力・活気・礼儀という方針を打ち出した。就職難の春、水不足の夏という状況の中、上級生、下級生が自覚を持ち日毎に力をつけていった。

春季リーグ優勝、関西選手権準優勝という結果のもと、他校からの注目、自チームのプレッシャーの中、秋季リーグが開幕した。私の宣誓の言葉〝勇往邁進〟の通り、五勝一敗で最終節同志社戦を迎えた。相手は全勝、私達は勝つしか目標への道はなかった。前半は、同志社優勢ながらも体を張って守り、後半へと望みを託した。残り十五分待望の一点が入った。気がつけば試合終了のホイッスルが鳴り響き、私達は歓喜の渦の中、勝利に酔いしれていた。この瞬間を迎えるために、四年間サッカーに打ち込んできたのである。私達は一九八八年以来二十六年ぶりに、ドラマチックな逆転優勝を達成した。

私が得たものは、測り知れない。中でも、優勝を目標にチームが一つになっていくまでの道のりは私の人生の糧となるであろう。四年間お世話になった関西大学、サッカー部の先輩、同期生、後輩達に感謝するとともに、更なる飛躍を期待しています。

（第1部社会学部・四年次生）

楽しく学んだ英国留学

松永　聡子

イギリスでの語学研修に参加することが決まった時、私は夢ではないかと思いました。実感が湧いてきたのは到着して二日後くらいでした。

最初の授業では、先生方の言われている内容が半分程しか理解できず、不安でいっぱいでした。しかし、一週間もすると、すんなりと理解できるようになりました。先生方がゆっくりと話をしてくださる上に、言おうとしていることにじっと耳を傾けて下さったことが何よりもうれしく思えてなりませんでした。

また、授業も堅苦しくなく、私達が興味をもつことを題材にして、「授業」という言葉のイメージが変わる程でした。

写真やテープやその他テキストなどを用いて、理解しやすく説明して下さいました。授業の他にも半日程、宿舎の近所へ遊びに行ったり、泊行ったりと様々な趣向がこらせん。その面からもいい経験になりました。

（第2部文学部・四年次生）

速く書き続けた日々

山口　亨也

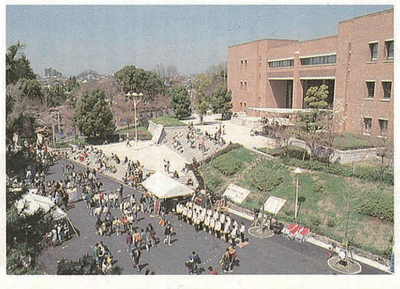
皆さんは速記というものをご存じでしょうか。そうであるのを聞いたことがあるのあのみずみずしい文字を使って人の話す言葉をそのまま書き取り、もとの文章に戻す技術のことです。

大学に入ったらどこかの部に所属しようと考えていた私は悩みに悩んだ末、速記部を選びました。速記部を選んだのは日本一だと知ったことが大きかったのですが、その後も勝ち続け昨年十二月の大会で十四連期を達成することができました。私自身もその大会でB級最優秀選手となることができました。入部したときは速く何も知らなかった私ですが、励ましてくれる友達がいなければここまでは来られなかったと思います。

私はこの四年間速記に打ち込んできましたが、ここで得られたものを一生の宝物として大事にしたいと思います。

最後に、これを読まれた方々が私以上のすばらしい速記というのは生物のようなもので、えさを食べなければ大きくならないように、練習しなくては身につかない技術です。そして最後に、一緒に活動してきた仲間のおかげで、入部したときは個人の能力次第ですが、励ましてくれる友達がいなければここまでは来られなかったと思います。

（第1部経済学部・四年次生）



留学生活で学んだこと

于　忠　民

日本留学を決めた時、大学時代の先生からこんな言葉を頂いた。

「学校での勉強も大事だが、本のない所での勉強も忘れないでください」

今、卒業を控えて二年間の留学生活を振り返る時、本のない所で勉強できたことが多かったことを痛感する。

私の所属する電気工学科の電気機器研究室は指導教官の平根先生をはじめ、院生八人のいる研究室である。みんなで、来る人来る人にその貴状家族のように親しみ助け合っている。特に留学生の私が一番みんなのお世話になる。言葉からレポートまで、みんなが日本語をニ寧に直してくれる。時々、私がみんなの重荷になっているのではないかと心配するが、いやな顔をされたことは一回もなかった。

時々思い出すのは、昨年のお正月、平根先生の家に集まった時のことである。先輩の上條さんの論文が日本電気協会の優秀賞をとった。その時の先生の顔は花が咲いたようにじっと耳を傾けて下さった

「七転八起」の就職活動

吉田　朋代

「深刻な不況」「女子の就職難」――私の就職活動はそんな記事を読んでは憂鬱になることから始まった。

婦人警察官という職業にひかれ、しかし企業で自分の可能性も試してみたい。そう思い、私は公務員と一般企業の両方を受験する決心をした。就職難だから自分の可能性を諦めるということに納得がいかず、かと言って、どっちつかずの中途半端には終わらせたくなかった。

この就職難の中で、資格無し、特技無し、語学力無し、クロス同好会で鍛えた根性と元気と明るさだけ。それを頼りに一般企業も二十社以上受験した。

「七転八起」この一見単純な言葉は、小学生の頃からの私の信念である。「女子の採用無し」と会社に言われても、社会人として新しいスタートを迎えられることを誇りに思う。

（第1部法学部・四年次生）

感慨深い中国語弁論大会

林　卓一

卒業する日も間近になり、関西大学を去る日が近づいた今、大学生活唯一の大舞台であった中国語弁論大会のことを思い出す。中国語の習得を大学での目標としていた私にとって、あの大会は学生生活という人生の通過点におけるピークのひとつだったといえる。

その日、後楽園近くの日中友好会館に全国から中国語を学ぶ人々が集まっていた。学生から会社員、主婦や老人まで様々な人が中国語という一つの共通項で結ばれ、今同じ場所で同じ時間を共有している。世代の違いはあるが、中国の旅行話や経済の発展などの注意書きがびっしりと書き込まれボロボロになっており、いまでも暗唱することができる。自分が学生活で得たことなど何一つ満足に言えるものはないが、私はこのボロボロの弁論原稿が残った。これが私が学生生活で何かをつかんだのだということを示す証である。

今思えば、その時の発表の文章は幼稚でとても人に見せられたものではないが、その当時はそれこそ必死で練習したのである。今も残る原稿には様々な色のペンで先輩からの注意書きがびっしりと書き込まれボロボロになっており、いまでも暗唱することができる。自分が学生活で得たことなど何一つ満足に言えるものはないが、私はこのボロボロの弁論原稿が残った。これが私が学生生活で何かをつかんだのだということを示す証である。

（第1部文学部・四年次生）

公認会計士の知識を…

中丁　卓也

みなさんは公認会計士という職業をご存知でしょうか。多くの方がほとんど知らない、またその存在は知っていても仕事内容まではご存知ないのではないでしょうか。あまり一般に知られていない公認会計士という職業人になるための試験を受けようとした動機は、その資格がほしいからではなく、彼らのもつ知識を得たいと思ったからです。

試験科目は会計学にはじまり、商法学、経済学、経営学など多岐にわたっており、将来、仕事をしていく上で必要なものは何もありません。私自身、大学を卒業して職につく時は何か自分の武器となるような知識を持ちたいと考えていました。そんな私にとって公認会計士試験は格好の機会であったのです。

受験を決意したのは一年次でしたが、本格的に受験勉強を開始したのは三年次からでした。なぜなら公認会計士試験の助言・助力なしではありえませんでした。ありがとうございました。

（第1部商学部・四年次生）

大学を去るに当たって

よき切磋琢磨の関係

文学部教授　伊藤　正文

関西大学に迎えられて七年目になる。この三月三十一日をもって定年退職することになったが、今もって忘れられないことは就任式当日の大西学長の温顔である。温顔は貴方の人格形成を喜んで歓迎します」と語っていられるようであった。就任以後その言葉の真実であることをかみしめるようになった。

同僚各位の温かくて周到なご支援、以前の非常勤時代の大学院の院生を含めて、新院生・学部学生は挙げて私の言葉をよく聞き、積極的に協力してくれた。そこにはよき切磋琢磨の関係があった。私にとって心楽しく緊張した七年間であった。

私にとって忘れられないのは、昨年十二月に行われた「中国文学の特質」と題する最終講演である。講演会には同僚を始め、旧任の神戸大の院生・学生、関西大の新旧の院生・学生、関学の学生で常に満ちた。私も一生懸命であった。聴衆は最大な拍手で酬いてくれた。私はこれで終わったと感激をもって痛感した。学生諸君などの楽しい思い出が心をよぎったことも事実である。

非常勤講師時代を含めると私が関西大学とかかわったのは十四、五年に及ぶ。この温かくやさしい十四、五年は私の生涯にとってかけがえのない貴重な時間である。最後にあたって、私とかかわられた方々の末長い御交誼をお願いする次第である。

この三月末日をもって十九名の先生が定年などにより退職される。多年にわたり本学の教育研究のために献身されてこられた方々はかりである。歳月の移ろいとともに避け難いことはいえ、惜別の情には切なるものがある。

本学を退職されるに当たり、先生方の胸中には様々な思いが去来していることであろう。先生方にお願いして、その感懐の一端を綴っていただいた。ただ残念ながら、ご病気その他の事情のため、ご寄稿いただけなかった方もおられる。

ここに改めて、在職中のご尽力に謝意を表するとともに、今後のご健勝とご活躍をお祈りしたい。

（大沼）

このたび退職されるのは、次の方々である。

（敬称略）

澤井　裕（法学部）
高島　義郎（法学部）
伊藤　正文（文学部）
多田　敏男（文学部）
右島　洋介（文学部）
本山　幸彦（文学部）
辻　賢二（経済学部）
平山健二郎（商学部）
中農　晶三（社会学部）
廣田　君美（社会学部）
林　利隆（社会学部）
大石　裕（社会学部）
岡田　明（工学部）
下間　頼一（工学部）
高松武一郎（工学部）
徳永　淳次（工学部）
岡　英二（工学部）
見市　晃（工学部）
高橋　昭子（工学部）

教室風景を回想して

文学部教授　多田　敏男

「この世の輝しき大事業は一人の人間の建設である。一人の人間の私生活は史上のどというので、二人がおやめになる一年まえの一九八八年、私は関大に迎えていただいた。

関大の教育学に歴史を取り入れ、教育学研究に厚みがほしいというのが学科の希望と竹内先生からきかされた。教育史専攻の私が呼ばれた理由もそこにあった。

だが、一方、関大の教育は深刻な病根がある筈だ。教育史の使命は、その病根を歴史的に解明し、それを改革することにある。これを今後の私の課題にしようと考えた。

しかし、教育史は学問として、膨大な史料をふまえた綿密な実証を必要とする。それなくしては、現実の役に立たない。就任以来七年間、こんな教育史を学科に根づかせたいと私は努力してきた。どこまでできたかわからない。だが、博士課程後期課程も作られ、若い人も巣立ち、私の後任にもいい人を得た。

これからのことは、今後の人たちにお任せし、心おきなく去りたいと思っている。

私のしたかったこと

文学部教授　本山　幸彦

まれたものではない。それには深刻な病根がある筈だ。教育史の使命は、その病根を歴史的に解明し、それを改革することにある。自分の選んだ学部に惚れよ。専攻したその専攻の専門に惚れよ。自分で選んでスタートしたゼミなら、そのゼミに惚れよ。いやだいやだと思いながら四年間を過ごすほどみじめなことはない。この四つ積極的に惚れる努力をすべきだった。

「四、五年行ってこい」と大学の指導教授に送り出された三十六年、感謝は人生の半分を関大で過ごしてしまった。当初は「腰かけ」ぐらいの軽い気持ちだった。すぐ別の大学へかわるつもりでいた。事実、数度にわたって一流といわれる国立大学からのお招きもあった。しかし、私は動かなかった。どうして三十六年も居たのだろうか。これには自縄自縛のエピソードがある。

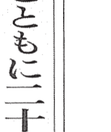
今でこそ優秀な学生が集まり、大学に誇りをもっている人ばかりであるが、当時は、社会学部設立当初は多くの学生が不本意入学で、学部に劣等感やコンプレックスがみなぎっていた。そこで私は事あるごとに、「大学生の四燈れ」を説いてきた。縁あってその大学に進学したのなら、その大学に惚れよ。自分の選んだ学部に惚れよ。専攻したその専攻の専門に惚れよ。自分で選んで入ったゼミなら、そのゼミに惚れよ。いやだいやだと思いながら四年間を過ごすほどみじめなことはない。この四つ積極的に惚れる努力をすべきだった。

こう言う以上、自分が大学や学生に惚れさせる筈は無い。学生を放りぱなして他大学へ逃げるわけにはいかない。こんなわけで私は関西大学に惚れてしまい、今に至っている。

私はこの惚れたことに喜びを感じてさえいる。いや、惚れがいのある大学であり、弟子たちであった。

教職課程とともに二十七年

文学部教授　右島　洋介



私は一九六七年に教育学科に就任した年から教職課程委員に列せられ、その翌年から副委員長、七三年から委員長を十三年間まされ、そのあと新設の教職課程研究センター所長を勤めましたので、関大生活の大部分を教職課程とともに過ごしたことになります。一人が同じ役職を長年勤めるのは決して誉められたことではないのですが、教職の会長と阪神地区協議会の会長を務め下さった大西前学長の温顔が嬉しかった。

先生、そして研究センター研究員及び事務の方々には大変お世話になりました。

教職課程研究センターという名称は全国唯一で大変注目されています。日本の教職課程のシステムは、世界の先進各国に比べてかなり杜撰という声が出て、改革すべき点が多いのですが、結局、私には何程のこともできませんでした。

現岡村所長を始め関係の皆様に心から感謝致します。何卒宜しくお願いします。

出会いと別れ

社会学部教授　中農　晶三

すばらしい先生方とともに仕事をし、ステキな学生たちにかこまれて、楽しい時間をすごして参りました。ふりかえれば夢のまま夢としか、いいようがありません。さらば！天使たちよ、の心境です。

去る二月十二日に最終講義をしました。そのあとゼミ四回生たちが、ゼミ教室でとった金員のパノラマ写真と、寄せ書きの色紙を進呈してくれました。その天使のことばの一部を再録します。

「二年間ありがとうございました。いつまでも元気で笑顔のステキな先生でいて下さい」

「お酒もほどほどに、いつまでもお身体を大切に……。お祭さんと仲よく暮らして下さい。またお会いできる日を楽しみにしています」

「二年間どうしようもないほどくたちの世話をしていただいて、ありがとうございました。これから先、いつしょに会うことがあれば、よろしくお願いします」

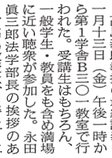
「ありがとうございました。先生のお話はとてもおもしろくて、そんな先生が大好きでした。」

「たいへんお世話になりました。先生のような人間になれるよう、頑張っていきたいと思います。」

「さらば！　天使たちよ…。

惚れてそのまま三十六年

社会学部教授　廣田　君美



「四、五年行ってこい」と十六年も居たのだろうか。これには自縄自縛のエピソードがある。

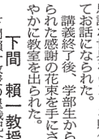
今でこそ優秀な学生が集まり、大学に誇りをもっている人ばかりであるが、当時は、社会学部設立当初は多くの学生が不本意入学で、学部に劣等感やコンプレックスがみなぎっていた。そこで私は事あるごとに、「大学生の四燈れ」を説いてきた。縁あってその大学に惚れよ。自分の選んだ学部に惚れよ。専攻したその専攻の専門に惚れよ。自分で選んで入ったゼミなら、そのゼミに惚れよ。いやだいやだと思いながら四年間を過ごすほどみじめなことはない。この四つ積極的に惚れる努力をすべきだった。

こう言う以上、自分が大学や学生に惚れさせる筈は無い。学生を放りぱなして他大学へ逃げるわけにはいかない。こんなわけで私は関西大学に惚れてしまい、今に至っている。

私はこの惚れたことに喜びを感じてさえいる。いや、惚れがいのある大学であり、弟子たちであった。

平和と自由と平等をめざす関西大学

工学部教授　岡田　明



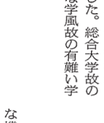
一九六一年、工学部金属工学科（現在の材料工学科）の助手として、翌年第一期生を送り出して三十四年、教職員第一号で報じている。その第二面に、自由に諸問題を討議して改革の具体策を究める「大学問題委員会」発足を伝えた。私はその委員の一人として改革のお手伝い？をしたのである。

以後はこの「通信」から重要な教学的情報を得て、のうのうと暮らしていた。平成の大学改革の嵐が吹きさらす、同六年一月（六十九歳）に突然広報委員会から、「関大フォーラムの新設に当たって意見を書け」との申し入れがあり、上田理事長も出席していた教員組合での「大学改革問題研究会」に発表した部を第三二四号に報告した。内容はともかくとして、文章が拙い上の等々の呼びかけに推進し得る人材を教育すべきであると思う。

大学を去るに当たって

唯々　感謝の三十七年

工学部教授　下間　頼一



昭和三十三年四月十一日、天文学舎で挙行された工学部第一回入学式に参列させて頂いてから早や三十七年。爛漫の桜の下、藤井拓磯先生（惜しくも物故）や赤松勝也先生（現工学部教授）らと肩をたたき合って入学の喜びを分かち合ったのが昨日のように想起される。

昭和四十年四月に赴任した頃の化学工学科は五研究室で、他学科より一回り小さい学科であったが、研究棟、実験棟の増改築と共に八研究室に増え、他学科なみになった。

最近、大学院に進学する学生が増え、定員を超える状況が続いている。

百周年記念式典に向けて研究室の充実の成果を表ろう。

昨年四月十六日には化学工学科創立三十五周年記念式典が催され、古い卒業生も多数参加され、大変盛会であった。その祝賀会で昭和四十六年に卒業されたN氏から「子供がお世話になっています。よろしく」との言葉を聞いた。今まで兄弟で化学工学科を卒業されたという話は何度か耳にしたことがあるが、親子でとの話は初めてであった。この学科を選んで、本当に良い判断であった。

御高導頂いた先生方、御協力下さった事務職方、モーラルサポートして下さった卒業生方に唯々感謝し、関西大学の更なる発展充実を祈ります。

大学を去るに当たって

工学部教授　高松武一郎

昭和四十年四月に赴任して頃の化学工学科は五研究室で、他学科より一回り小さい学科であったが、研究棟、実験棟の増改築と共に八研究室に増え、他学科なみになった。

最近、大学院に進学する学生が増え、定員を超える状況が続いている。

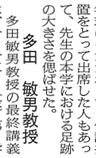
百周年記念式典に向けて研究室の充実の成果を表ろう。

昨年四月十六日には化学工学科創立三十五周年記念式典が催され、古い卒業生も多数参加され、大変盛会であった。その祝賀会で昭和四十六年に卒業されたN氏から「子供がお世話になっています。よろしく」との言葉を聞いた。今まで兄弟で化学工学科を卒業されたという話は何度か耳にしたことがあるが、親子でとの話は初めてであった。この学科を選んで、本当に良い判断であった。

御高導頂いた先生方、御協力下さった事務職方、モーラルサポートして下さった卒業生方に唯々感謝し、関西大学の更なる発展充実を祈ります。

百周年記念会館の坂道

工学部専任講師　見市　晃



関大前駅を一高側の改札口から出て、工学部まで続く道は緑濃く小鳥のさえずりや山茶花、沈丁花、つつじ、藤、木蓮などの花が咲き香る快適な道である。幼稚園児の声というより元気な先生の歌声が聞こえてくる、車の心配のない愛すべき通学路といえる。道はいつも きれいに掃かれて手入れされているが、管理の方法に疑問がある。いつも刈り込まれている木と野放図に放置されている木とがある。伝統的な植木の管理は日本庭園などの専門家で、輸入種固有の庭木が対象で、人は仲び放題で得をしているように思える。私は電車で中央部に乗りホームをゆったり歩いて一気に坂を登ることにしている。一高側の坂は、いつも暗くお世話になっている。

今般の震災で心身共に疲れた。実行に検討の余地はないのだろうか。

百周年記念式はより盛大に

工学部教授　徳永　淳次

昭和四十年四月に赴任した頃の化学工学科は五研究室で、他学科より一回り小さい学科であったが、研究棟、実験棟の増改築と共に八研究室に増え、他学科なみになった。

最近、大学院に進学する学生が増え、定員を超える状況が続いている。

百周年記念会館や総合図書館ができて、学会や研究会が開催される機会が大変多くなり、研究発表が活発に行われる様になったことも学生の研究意欲の向上の成果であろう。

昨年四月十六日には化学工学科創立三十五周年記念式典が催され、古い卒業生も多数参加され、大変盛会であった。その祝賀会で昭和四十六年に卒業されたN氏から「子供がお世話になっています。よろしく」との言葉を聞いた。今まで兄弟で化学工学科を卒業されたという話は何度か耳にしたことがあるが、親子でとの話は初めてであった。この学科を選んで、本当に良い判断であった。

御高導頂いた先生方、御協力下さった事務職方、モーラルサポートして下さった卒業生方に唯々感謝し、関西大学の更なる発展充実を祈ります。

大学を去るに当たって

工学部教授　岡　英二

関西大学にお世話になり始めても七年が経ってしまった。赴任してきての最初の印象は面倒なこと、そして事務職員の方々がなんとよく働かれることかと感じたこと、なお記憶すること」と誤った認識の雰囲気のお陰であると心より感謝している。

大学を去るに当たって、どうしても気になることが一つだけある。それは、工学会へ寄稿した退職の言葉にも述べたことだが、学生諸君の多くが、大学での勉強を「憶える、単に知っている」、即ち「知」のために高等授業料を払って大学に来ているのではない筈である。試験前にプリントやノートを丸暗記することだけは止めて欲しい。それが学生諸君自身の、そして日本、世界の将来の為にも非常に大切なことだと確信している。

短い間でしたが、本当に有難い御座居ました。

アッというまの七年間

工学部教授　高松武一郎

をしているのではないか、という危惧である。大学での勉学の本質は「理解、判別する心の作用を育てる」、即ち「知」を高めることであって、単に知っている、即ち「知」のために高等授業料を払って大学に来ているのではない筈である。試験前にプリントやノートを丸暗記することだけは止めて欲しい。それが学生諸君自身の、そして日本、世界の将来の為にも非常に大切なことだと確信している。

短い間でしたが、本当に有難い御座居ました。

退職記念　最終講義

▼法学部▲

高島　義郎教授

高島義郎教授の最終講義は、第一学舎で恒例の関西大学教育学会研究集会および総会が催された。集会では、文学部教育学科の本山幸彦教授と右島洋介教授の定年退職を記念して、両先生の「講演会を行った。本山先生は「大学院でみつけた福沢諭吉、右島先生は「大学院でみつけた教育学」のタイトルで行われた。社会主義体制の国に、資本主義の手先と言われる広告が存在するのか？教授の結論は単純明快だった。自由経済に移行途中の国では、自由と資本主義の関係は、日ソ連政府または党から資金援助を打ち切られた新聞、テレビは、広告収入に依存せざるをえないということであった。そのあとゼミの女子学生からカラフルなストックとバラの花束が贈呈された。

▼文学部▲

伊藤　正文教授

伊藤正文教授の最終講義は平成六年十二月十六日、第一学舎D一〇一教室において、「ホーソンのジェイムズ」と題して行われた。講義は、関西大十数年の学生の在職の経験とアメリカ文学に関する深い学識と創作上の微妙な影響関係をめぐるものであり、ジェイムズ研究家として知られる教授がさらに新しい研究領域へ踏み込もうとする、感銘深い名講義であった。教授の人柄を反映して、受講生の学生からたくさんの花束が贈呈された。

▼社会学部▲

右島　洋介教授
辻　幸彦教授

昨年十二月二日（土）午後二時半から千里山キャンパス第一学舎で恒例の関西大学教育学会研究集会および総会が催された。集会では、文学部教育学科の本山幸彦教授と右島洋介教授の定年退職を記念して、「講演会を行った。

本山先生は「大学生の四燈れ」を説いてきた。縁あってその大学に惚れよ。自分の選んだ学部に惚れよ。専攻したその専攻の専門に惚れよ。自分で選んで入ったゼミなら、そのゼミに惚れよ。いやだいやだと思いながら四年間を過ごすほどみじめなことはない。この四つ積極的に惚れる努力をすべきだった。

こう言う以上、自分が大学や学生に惚れさせる筈は無い。学生を放りぱなして他大学へ逃げるわけにはいかない。こんなわけで私は関西大学に惚れてしまい、今に至っている。

私はこの惚れたことに喜びを感じてさえいる。いや、惚れがいのある大学であり、弟子たちであった。

▼農晶三教授▲

中農　晶三教授

中農晶三教授の退職記念講義は、三月四日（土）に第4学舎4B教室で「関大三十七年一睡の夢」と題して行われた。スライドと「下間メモ」と言われる教授の研究室の記録、「鋳鉄の知られざる世界」と題して行われた。人類とともに歩む鋳造・凝固工学」に関する学問と技術の継承の必要性と鋳鉄における興味深い必要性を現象ならびにその不思議な世界をOHPを駆使してお話になられた。

講義終了後、学部生から贈られた感謝の花束を手にされ、やがて教室を出られた。

▼下間　頼一教授▲

下間頼一教授の退職記念講演は、三月四日（土）に第4学舎4B教室で「関大三十七年一睡の夢」と題して行われた。スライドと「下間メモ」と言われる教授の研究室の記録、「鋳鉄の知られざる世界」と題して行われた。人類とともに歩む鋳造・凝固工学」に関する学問と技術の継承の必要性と鋳鉄における興味深い必要性を現象ならびにその不思議な世界をOHPを駆使してお話にされた。

▼高松武一郎教授▲

高松武一郎教授の退職記念講演は、三月二日（木）第4学舎一〇一教室で「次世代化学生産プラントのための必要技術」と題して、学部の、大学院生、教職員の多数の聴衆が熱心に聞き入るなかで行われた。教授は化学工学の根幹をなす重要な分野での創造的研究を省みて、その業績は世界一と評価されている。ユーモアを交えた示唆に富む講演内容は聴衆を魅了した。終了後、学生から花束が贈呈された。

▼徳永　淳次教授▲

徳永淳次教授の退職記念最終講義は三月二日（木）第4学舎一〇一教室で、「物性研究を省みて」と題して行われた。その中で教授は、本学に就任されて以来、一貫して研究、教育のテーマとされてきた物質物動の基礎的資料として、化学工学の分野で非常に重要な物性研究の長い苦労の多かった道のりをふりかえって述べられ、聴衆に深い感銘と示唆を与えられた。

講演後、卒研の学生から花束が贈呈された。

退職記念　卒業生の思い出

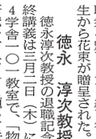
工学部助教授　岡　英二

座右の卒業生名簿（工学会発行）をみていると、昭和四十四年、関連企業に就職した。いまでは金融関係のシステムエンジニアのベテランとなり、その業界では「もくり」であるとわれている。また、優等生のS君は大林寺流法と学業を立事に両立させたK君は石油ショック時代に中小企業に就職した。現在では開発部門のリーダーとして活躍している（採用担当役員の話。学生諸君、先輩に負けないように頑張ってください。

終わりに諸先生ならびに事務のみなさん大変お世話になり、ありがとうございました。

嬉しい便り

工学部助手　高橋　昭子



「関西大学に一緒に行かないか」との突然の誘いを受けたのは、卒業をひかえた昭和四十二年のことで、同年の四月工学部に建築学科が創設されました。まだ就職先が未定だった私と同級生の二人は、こうして本学に参り致しました。

学識豊かな三人の教授と学部を卒業したばかりの私達二人の、合計五人からのスタートでした。緑に囲まれ伝統ある富む美しいキャンパスを、最初に目にした時の印象は強烈で、ここがその後学園紛争の舞台になるなど思いもよらなかったことです。以来二十八年にわたり、恵まれた環境のもとで勤めることが出来ました。丁寧なお便りを頂きます。故郷で親の仕事を継いだT君の はがきには可愛い三人のお子さんが写っています。ネットワークづくりや新しい工法の開発に頑張っていることを話してくれました。一方まだ少ない女性卒業生ですが、色々と困難な中での彼女達の元気さが伝わってきます。私も心機一転新たなスタートを始めます。

関大フォーラム

大学と職業教育

民事訴訟法の講義と職業教育

上野　恭男

今日の大衆化した大学にあっては、もはや大学は学問の研究や後進学者の育成のためだけの場ではなく、広範な職業教育の使命を果たす必要がある。学校教育法五二条の規定はやや曖昧であるが、ドイツの大学大綱法は、明確に大学教育の一般的目標が「学生に職業上の活動分野の準備をさせること、および、そのために必要とされる専門的知識、能力および方法を修得」させることにあると規定する（七条）。このような法学教育の目標そのものには今日あまり異論はないと思われるが、「職業上の活動分野」として何を想定すればよいのか、法理論に関する情報量が飛躍的に増大している現在、どのような法的知識を学生に伝達するべきなのかについては、残念ながら基本的なコンセンサスが失われてきているように思われる。

数年前、民事訴訟法学会で「大学における民事訴訟法教育」をテーマに、シンポジウムが開催されたことがある。学者のほか実務家二人（企業の法務部員と研修所付判事）から報告があり、一般企業に就職する学生だけではなく、法律専門家をめざす学生向けの教育をするべきこと、基礎的な理論教育だけではなく、もう少し実用的、実践的教育もするべきことなど、大学の民事訴訟法教育に対し、「あれもこれも」の要求がつきつけられた。私自身は、これは大学教育に対する過大な要求であると考えている。当日、ほぼ同年代の学者から発言があったが、民事訴訟の基礎理論につき、学生に理解させ考えさせることができれば、大学教育としてはそれで十分であろう。それが司法試験には全く役立たないというのであれば、司法試験の方が変わるべきであると思う。

むしろ、このような基礎的教育すら十分にできていないところに、現在の大学教育の問題があるように思われる。

今年度、私は破産法の講義を担当した。一一〇人程度の学生が履修したが、常時講義に出席したのは二〇人あまりであった。試験を受けた学生は七〇人程いたが、採点して満足できる答案（八〇点以上）を書いた学生は、わずか二人であった。

前述のシンポジウムを聞いていて、どこか別世界の大学教育の話がなされているかのように感じられ、素直に議論を受け入れることができなかったことを覚えている。このような受け止め方をしたのは果たして少数にとどまるのか、率直に議論をしたいと考えている。

（法学部教授）

専門化と汎用性

須田　一幸

私の講義では、受講生が提出したリポートに基づいて成績を評価する。その作業は単調であり、気分転換のため毎回、本題と異なるテーマを一つ設け、「最近読んだ本で面白かったもの」とか「夏休み中に感動したこと」などを書いてもらい、それをささやかな楽しみにしている。その中で毎年、必ず問うものに「この講義ならびに他の講義の改善案」がある。講義全般に関する要望で圧倒的に多いのが「入社してから実際に役立つ知識を伝授してほしい」ということだ。マーケットのニーズを無視して製品開発ができないように、われわれ教員も学生諸君の要求を無視するわけにはいかない。おそらく彼（女）らは、ビジネスの社会ですぐに役立つ専門知識を求めているのだろう。商学部の学生だから、しごく当然のことである。私もそのような要望があることを常に意識して講義をしているつもりだ。しかし「ちょっと待ってくれ」と私は言いたい。

私の友人にシステムエンジニア（SE）がいる。五年ほど前、この仕事を希望する学生が急増したので彼に、SEとして大成するためにはどのような大学教育が必要であるか、ということを聞いた。「コンピュータ言語をマスターしていれば即戦力となる。しかしそれしかない人は三年でつぶれてしまう。会計学や経営学を知っている裾野の広いSEが長期戦を勝ち抜く」と答えた。

つまり、細分化された専門知識は短期的な優位性をもたらすが、比較優位性を長期にわたって確保するには汎用性のある知識が必要だ、ということである。

公認会計士についても同じことがいえる。企業会計原則などを丸暗記して試験に合格しても、なぜその処理法が正しいのかという理論をマスターしなければ将来、監査人として活躍することはできない。原則や基準が存在しないケースに直面することが多々あり、そのときは会計理論に即した判断が求められるからである。受験教育ではなく汎用性の高い教育が求められる所以である。

しかし専門化と汎用性を同時に達成するのは、そう簡単なことではない。一人の教員や一つの講義で両者を達成することは不可能であろう。学部による全体教育により初めてなし得ることである。①企業の即戦力となるような専門科目、②経営の諸問題を広く浅く扱う科目、③歴史観や人生観を養う科目、のバランスを最適化し、学生が社会に出てから短期的・長期的に比較優位性を確保できるようにしたい。もっとも、大学教育を通じて比較優位性を得ようとする意欲が学生諸君になければ話にならない。単位認定が甘いという理由で受講科目を決定するようではねぇ。

（商学部助教授）

「関西大学百年史」

「年表・索引編」を刊行

創立百周年記念事業の一つとして編纂が進められてきた『関西大学百年史』の「年表・索引編」が完成した。

この本はその名が示すとおり、大きく「年表」と「人名索引」からなり、いずれも既刊の「通史編上・下」に記載されている事項・人名を収録の対象としている。

特に「年表」においては〈教学・法人事項〉と〈学生関係事項〉に収めた項目の文末に「通史編」の記載ページを示し、もとの記述に当たれるよう便宜をはらっている点が大きな特徴である。「通史編」と相互に補完しあうことで、より一層便利に使用できるようになっており、学内外での有効活用が期待される。

本書の刊行で『関西大学百年史』は、「通史編上」「通史編下」「人物編」「年表・索引編」「百年のあゆみ（写真集）」の四編五巻が完成したことになり、あとは「資料編」を残すだけとなった。希望者にはこの「年表・索引編」を実費で頒布する（二五七五円税込、送料は別）。問い合わせは関西大学出版部まで（〇六―三六八―〇二三七）。

Book 新刊紹介

法学部教授　植木　哲
工学部教授　森　健一　他著
『現代PL法の実務解説』
（新日本法規・四〇〇〇円）

今年の七月一日から施行される「製造物責任法／PL法」は産業界挙げての関心事である。本書は題名にあるように、実務と現状を重視しつつ理論と実際の対応関係や交錯状況を注意深く分析しながらまとめたものである。執筆者に法律学者、弁護士、保険専門家および産業工学者と実務をめぐる主要な観点の専門家をそろえ、しかも寄せ集めでなく連携のとれた内容で構成されている点が特色であり、模索しながら実務に取り組んでいる人々にとって恰好の指南書となるであろう。

内容は、消費者被害の救済とPL法の必要性、製造物責任の本質、裁判における立証問題、損害賠償履行確保措置、品質管理におけるPL問題、の五章からなり、それに豊富な判断資料が付加されている。

PL問題はすぐれて文化問題の側面をもつ。待つのが平気な文化、すぐ訴訟する文化、インフレで長い目の欠けた文化など、異文化理解の姿勢で本書を締く人の多いことを願う次第である。（藤田彰久）

法学部教授　山川雄巳著
『政治学概論』（第2版）
（有斐閣・三二九六円）

政治および政治学の全体像把握をめざす概説書は、実は意外に少ないのであるが、とくに一人の著者の手になるものはまれである。対象領域の広がり、厖大な過去の蓄積に加えて、政治の世界を把握することの特有の困難性からして一人の手に負えないと考えるのが普通である。ところが著者はその困難な課題に挑戦し、該博な知識と緻密な論理構成力、とりわけアメリカ政治学についての深い造詣をもって、みごとな成果を産み出した。いわゆる概説書の域をはるかに超えて、山川政治学のエッセンスともいうべき内容からなっていたのが本書の旧版である。

今回その新版が刊行された。増刷を重ねた旧版に新たに一八〇頁余を加えて、全体で五一九頁にもおよぶ大著である。国際政治に関する新たな章が加わったほか、五五年体制の崩壊などの最近の政治動向をとり込み、また投票行動の分析のいっそうの充実をはかるなど、さらなる前進へ向けての執念の所産である。

（小林弘二）

名誉教授　大西昭男著
『見ようとする意志
―ヘンリー・ジェイムズ論―』
（関西大学出版部・七〇〇〇円）

文学の研究はむずかしい。文学に棹させば流され、研究に傾けばその意味を問われる。その危うさを思えば、本書は文学研究の精髄の稀有の顕現と言える。特にその中心となる「論」五篇は、論証の妙、観照の冴え、ともに読む者を圧倒する迫力である。

著者は、HJの人間観照への「渇」きこそ彼の「見ようとする意志」の源泉であり、醜の至り、されど美の極みたる人間存在への「畏れ」こそ、HJの視点人物、身代り経験の美学と神秘の源流であるとする。そしてHJの水も洩らさぬ筆の冴えに、そしてふとよぎる翳りに、鋭く執拗に迫る。それは著者みずからの渇きと畏れが、視点人物HJを喚起し、小説世界を現出せしめているかのようである。

二十代の半ば、『ある婦人の肖像』を途中で投げ出してしまった私には、HJをinvokeするだけの渇きは遂に与えられなかった。著者の熾烈な「見ようとする意志」には羨望をすら感じる。学長十五年、その苦節を支えた「離見の見」の渕源を見る思いである。

著者の畏友、今は亡き名取栄史氏に代わりこれを書く。合掌。

（織田　稔）

名誉教授　谷沢永一著
『粋判官』
（文藝春秋・一五〇〇円）

本書は、1～3の三部に構成されている。

1は、書名になった「粋判官」ほか四編を収める。ここでは、評論・評価に関するものが集められ、2以降の序章にあたる内容となっている。

2は、雑誌などに掲載された本に関するコラム二十五編からなる。主なものは、『中央公論』一九八九年一月号から翌年一月号まで連載された、問題のある本を取り上げたコラム「問題の書」の十二編。一九八九年の『諸君！』に連載の、有用の書、注目の書などについてのコラム「無影燈」十二編の内九編である。その目配りは、いつもながら幅広く、司馬遼太郎、手塚治虫、さらには広山義慶にも及ぶ。

3は、開高健、渡部昇一などの著書に付された解説を主とする十一編からなる。

著者のこの種の本を読むときの楽しみのひとつは、文中に引用される多くの本のなかに、思わず食指が動くものがいくつも見つかることであろう。このため読了後にも別の楽しみを与えてくれる。本書も然り。一読をお勧めする。

（柴田真一）

アラン・リピエッツ著
経済学部教授　若森章孝他訳
『緑の希望』
（社会評論社・二四七二円）

本書を読むとエコロジーがわかるだけでなく、エコロジーを旗印に掲げる様々な思想や運動の「緑の濃さの違い」もわかる。それだけでもずいぶん得をした気持ちになる。

著者アラン・リピエッツは今話題のフランス・レギュラシオン学派の旗手の一人で、緑の党の経済問題専門家でもあり、若森氏による翻訳がすでに四冊出版されている。

リピエッツが掲げる「政治的エコロジー」とは、たんなる環境保護主義ではなく、地球環境危機の原因を「生産第一主義」に基づく「不公正な経済秩序」に求めて、「一人ひとりが現在の生活を変えていく」ことを経済の制御・調整力の回復に結び付け、「地球規模の責任・自律・連帯・民主主義」という価値観に基づく「新しい生き方＝持続可能な発展」の展望を体系的に示そうとするものである。

個人の消費レベルを超えて何をどうしたらいいか、具体的提案がここにある。学生・教員を問わず、多くの人にぜひ読んでほしい。（植村邦彦）

▶編集後記◀

また若人が学生時代に別れを告げる季節が巡ってきた。特に今春は、それぞれに就職の厳しさを体験し、さらに突然の阪神大震災の悪夢を乗り越えての旅立ちである。

本号は、卒業生特集号として編集した。巻頭に学長から卒業生への餞の言葉を頂いた。第四・五面では卒業生に心に残るであろう学園の思い出を、第六・七面では退職される先生方に大学を去るに当たっての感懐を綴って頂いた。今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げる。第八面の関大フォーラムでは、大学の役割を職業教育の視点から論じ、大学教育の一つのあり方を問いかけた。第三面に、震災による本学関係の被害状況をお知らせした。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、より一層大学としての援助の広がりを切に願う。（高井記）